

1. 略歴

1979年4月	九州大学文学部 入学
1983年3月	同大学同学部英語学英米文学専門課程 卒業
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻修士課程 入学
1986年3月	同大学院同研究科同専攻修士課程 修了
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻博士課程 入学
1988年3月	同大学院同研究科同専攻博士課程 中退
1988年4月	東京女子大学文理学部英米文学科 専任講師
1992年4月	同大学同学部同学科 助教授
1993年9月	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 フルブライト交換研究員（～1994年9月）
1997年4月	立教大学文学部英米文学科 助教授
1999年4月	同大学同学部同学科 教授
2003年9月	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 フルブライト交換研究員（～2004年9月）
2007年4月	立教大学文学部文学科英米文学専修 教授
2017年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

アメリカ文学、特にアメリカ南部文学

b 研究課題

アメリカ南部文学の総体的特徴のひとつとして「戦後性」に着目し、ドイツの文化史家ウォルフガング・シヴェルブッシュが2002年に唱えた「敗北の文化」の概念を枠組みとして、日本の近代文学、あるいは所謂「戦後文学」との相対的比較を行う。

c 概要と自己評価

2005年に出版した著書『敗北と文学——アメリカ南部文学と日本近代文学』においてその概要を提示した、19世紀中葉の南北戦争以降の「敗北の文学」としてのアメリカ南部文学と、所謂「戦後文学」を含む日本近代文学の比較検討に関するおおまかな定式ないし視座にしたがって、対象となる両文学それぞれのより細かい時代区分における比較検証を継続的に行っている。

2018年度は科研基盤研究C「アメリカ南部文学の戦後性について——戦後日本文学との比較考察」の第3年目にあたっており、それまで2カ年にわたる研究の進捗に準じて、第一次大戦後のアメリカ文学のモダニズム全盛期にあって、モダニズムの技術革新とその背後にあるT. S. Eliotの*The Waste Land*にその顕著な表現を見出す都会型孤立の精神を受け継ぎつつ、家族とその土地にまわりつく敗北の閱歴に対する嫌悪と執着をあわせもつWilliam Faulkner、Thomas Wolfeなどを対象とし研究を継続した。

2019年度は同科研最終年度にあたり、やはり当初の研究計画にもとづいて、20世紀中葉移行の南部文学に焦点を当てた。この時期にはヴェトナム戦争におけるアメリカ国家としての一種の敗北経験が差し挟まれ、南部史家C. Vann Woodwardは、ヴェトナムの「敗北」を経てアメリカは初めて南部に比肩する経験を積むことになると言ったが、ヴェトナム体験が南北戦争後に出来た土地の〈規約〉の破壊、内在の美学の断絶と新しい外部由来の親しみのない新美学への転轍といった事態を果たしてともなったか、疑問の余地なしとはしない。いずれにせよこの時期については、ふたつの「敗北」における精神的震度の相違を問題とする南部作家たちを対象に据えることとした。

4カ年の研究成果は以下に記したような論文等に反映されているほか、また現在、「女・性と歴史——『響きと怒り』と『或る女』より」と題し、「敗北の文化」下の文学に現れる歴史転轍の象徴として女性の人生の不可逆な屈折を見出し、イギリス、フランス、ロシア、ニューイングランドの同様の「女の一生」ものとの差異を検討する論文を執筆中、今年度末か来年度早々に出版される予定。加えて同内容のものを20年度開催予定の日本英文学会全国大会シンポジウムにて発表を予定している。

d 主要業績

(1) 論文

後藤和彦、「混血の使途——『八月の光』と『墓碑銘』」、『フォークナーの水脈、花岡秀監修、藤平育子・中良子編』、265-88 頁、2018.9

後藤和彦、「家・父・伝説—フォークナーと島崎藤村」、『フォークナーと日本文学』（諏訪部浩一、日本ウィリアム・フォークナー協会編）、74-99 頁、2019.10

(2) 書評

巽孝之、『パラノイドの帝国 アメリカ文学精神史講義』、大修館書店、『英語教育』、Vol. 67, No. 13、91 頁、2019.3

岡本正明、『アルタモント、天使の詩——トマス・ウルフを知るための 10 章』、英宝社、『週刊読書人』、第 3293 号、7 頁、2019.6

(3) 解説

後藤和彦、「概観二〇一七年「アメリカ文学」」、日本文藝家協会編『文藝年鑑 2018』、69-71 頁、2018.6

後藤和彦、「概観二〇一八年「アメリカ文学」」、日本文藝家協会『文藝年鑑』、76-78 頁、2019.6

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

広島大学大学院、「米文学特殊講義」、2018.8

東北学院大学大学院、「現代英米文学演習」、2020.8

(2) 学会

国内、日本アメリカ文学会、副会長、2018.4～

国内、日本マーク・トウェイン協会、評議員、2018.4～